

アルメディオ（高橋靖社長）は、主力の断熱材事業に続く成長分野として、ナノマテリアル事業を推進している。2019年4月に

事業を開始。独自技術のカーボンナノファイバー（CNF）などのナノ製品の製造・販売を展開する。

CNFは、従来にはなかった直径200～800ナノメートル（ナノは10億分の1）、長さ1～20センチ（マイクロは100万分の1）のサイズを実現。細くて長いために凝縮が起こりやすいカーボンナノチューブよりも大きく、カーボンファイバーよりも細い中間の炭素材料

となり、高濃度の添加も容

## アルメディオ

# ナノ製品事業を推進

## 従来にないサイズ実現

◁ 5 ▷

易で分散しやすい特徴を持つ。

CNFを樹脂に添加することで、強度や弾性を高め、電気伝導、熱伝導、滑りや

すき、遮へい性など複数の機能を付与した高機能性複合材や塗料を開発できる。

自動車用樹脂部品をはじめ、自動運転用電波吸収材

設計した。新工場は延べ床面積約2500平方メートルで、年末にかけてCNFなどの生産を開始する計画。立ち上げ当初は地元従業員を中心

に11人が勤務し、今後、生産規模に応じて増員する。地元からの継続的な雇用創出を目指し、地域活性化に貢献していく。

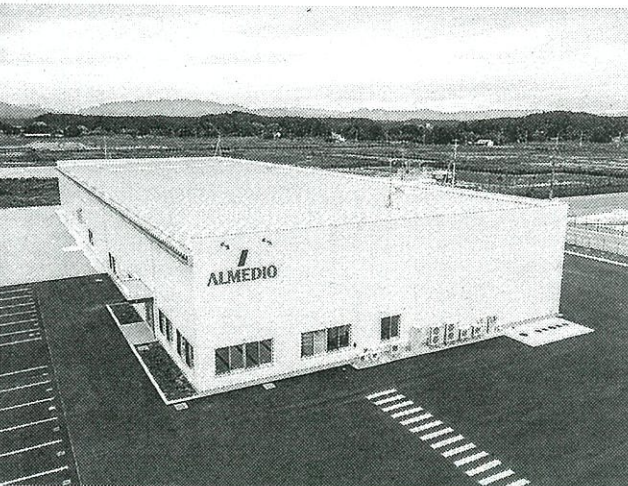
料や空飛ぶクルマ用熱伝導材料、半導体冷却用シート材料、3Dプリンター用材料など幅広い用途での活用を想定。自動車の次世代技術「CASE」対応樹脂部品の軽量化や、電磁波特性などの設計を可能にする。

展示会では、繊維化したCNFのサンプルも用意し、技術特徴を紹介する。また、うろこ状の合成グラフェンパウダーも提案。厚み200～800ナノメートル、粒子サイズ15～30センチで、より高い熱伝導・電気伝導、滑りやすさなどを付与することが可能。

昨年8月には営業と技術部門を集約した東村山事業所を開設。製品の本格採用の拡大に向けた量産化体制の強化と設備の拡充を図った。さらに今年8月、福島県双葉町の中野地区復興産業拠点に福島双葉工場を新

期経営計画の中で、断熱材事業とナノマテリアル事業を柱とする機能性材料メーカーへの転換を図る方針を掲げている。自動車や航空機、医療機器などの次世代技術に使えるナノ製品の開発、生産、加工を強化。積極的な投資を進め、ナノマテリアル事業の連結売上高を本年度見込みの1億2100万円から24年度に8億2600万円に引き上げていく方針。

双葉町に新設した福島双葉工場



設した。新工場は延べ床面積約2500平方メートルで、年末にかけてCNFなどの生産を開始する計画。立ち上げ当初は地元従業員を中心

に11人が勤務し、今後、生産規模に応じて増員する。地元からの継続的な雇用創出を目指し、地域活性化に貢献していく。

同社は、今年発表した中期経営計画の中で、断熱材事業とナノマテリアル事業を柱とする機能性材料メーカーへの転換を図る方針を掲げている。自動車や航空機、医療機器などの次世代技術に使えるナノ製品の開発、生産、加工を強化。積極的な投資を進め、ナノマテリアル事業の連結売上高を本年度見込みの1億2100万円から24年度に8億2600万円に引き上げていく方針。

△メモ▽本社 東京都国立市▽東村山事業所 東京都東村山市恩多町▽電話（東村山事業所）042-399-2451▽設立 1981年▽従業員数 1178人（連結）

（おわり）